埼玉県退職校長会
大里支部会報
おゝさと
第50号
（題字は支部長）
令和3年1月31日
発行者
新井俊一

―あいさつ―

「おゝさと」第50号の発行を祝して
―その軌跡を振り返る―

支部長　新井　俊一

大里支部会報「おゝさと」は、平成八年九月十一日に創刊され、以来四半世紀、本号で第50号を迎えました。この上ない喜びです。

この間、先輩各位が固い絆のもと今日の発展に導かれた情熱と叡智に、深甚なる敬意を捧げたいと思います。

「おゝさと」第50号記念の発行に当たり、埼玉県退職校長会長石田孝作様はじめ、元支部長瀧口和夫様（熊谷班）、同石川修三様（深谷班）、同小林弘様（寄居班）よりご丁重な祝辞を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。

さて、「おゝさと」は創刊以来二十五年にわたって、支部の活動記録（定期総会、教育推進協議会、新入会員の声、同好会だより、訃報等）、会員の生きるヒントを綴った随想、香り高い文芸作品、そして絵画、水墨画、写真を掲載してきました。創刊号から第49号までを手に致しますと、正に「支部の歴史そのもの」が記録されていると思われます。

その歩みを振り返ってみます。

○創刊時はB5版でしたが、平成二十一年度からはA4版に改訂されました。県会報に倣ったと伺いました。

○第10号、第20号、第30号、第40号には、元支部長様の祝辞が寄せられております。

○この二十五年の支部の歴史の中で最も大きな出来事は、平成の大合併に伴う支部組織の改正でした。そして平成十八年度から、現在の熊谷、深谷、寄居の三班編成となりました。

○県定期総会が大里支部の担当により平成二十二年度に深谷市で開催されたことも、会員の皆様の記憶に新しいものと思われます。

結びに、第50号までの作成に係わられた広報部員の皆様の情熱と英知に厚く御礼申し上げます。

その延べ人数は百名を越え、正にこれこそ「大里の底力」ではないかと思っております。

ここに第50号記念の発行にあたりご尽力いただいた多くの皆様に、衷心より敬意と感謝を申し上げ巻頭の挨拶といたします。

「おゝさと」50号記念　特別寄稿

大里退職校長会 会報『おゝさと』第50号記念号に寄せて

埼玉県退職校長会会長　石田　孝作

大里退職校長会が、ここに会報『おゝさと』第50号記念号を発行されますことは、誠に意義深く、埼玉県退職校長会を代表いたしまして心からお祝い申しあげます。誠におめでとうございます。

貴会は、昭和四十三年四月に規約を確定され、会員六十三名をもって発足し、本格的な活動が始まったと仄聞しております。以来、「会員相互の親睦と福祉の増進につとめると共に、地区内教育の振興に寄与すること」等を目的として活力ある事業を進めて来られました。また平成十八年、平成の大合併により旧来の二市七町時代の五班の構成から熊谷・深谷・寄居の三班の組織に改編し、充実した活動を展開されております。令和二年度には、十一名の新会員を迎え、総会員数三百四十名という大きな組織となりました。

これもひとえに貴会の歴代役員をはじめとする先輩各位のご努力と会員皆様方の大里の教育に寄せる情熱の賜物であると深甚なる敬意を表すところであります。

ところで、グローバル化、情報化が急速に進展する時代となりました。それに伴い、AI（人工知能）の進歩が社会の大きな関心事となり、これに関連したニュースが報じられない日はありません。

今後、社会の構造に大きな変化が生じるものと予想されます。教育界におきましても、本年度、全

面実施（小学校）となりました新学習指導要領に「プログラミング教育」に関わる指導内容が示されたことも、その証左ではないでしょうか。埼玉県退職校長会では、このような時代の流れをしっかりと把握し、「教育支援・社会貢献」と「会員の親睦と福祉」に重点を置き、目的達成に向けた活動を着実に進めて参りたいと存じます。

終わりに、大里退職校長会の更なるご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

50号発行を祝して

元支部長　瀧口　和夫

憶えば平成八年当時の堀口支部長さんの英断のもと、役員、事務局の方々の情熱とご尽力で呱々の声をあげた創刊号から二十五年、ここに記念すべき50号の発行を迎えられたことを衷心よりお慶び致します。

その間、多くの方々の並々ならぬご尽力と、会員の皆様に支えられての今日の成果です。

私個人としては、広報編集にかかわったのは平成九年第3号からでした。県広報委員との兼務でその後の副支部長就任までの数年間を部の一員として編集にたずさわってまいりました。

当時は、県下九支部のうち支部広報を活版印刷刷りで発行していたのは五支部位というのが実態でした。そうした中で県広報の編集会議の折「おおさと広報」をお配りする少々晴れがましい思いを今もって覚えています。

それにつけても、この度は世界的な規模でのコロナ禍で当然支部活動も停滞せざるを得ない現状のなか役員、事務局の皆さんの悩みもひとかたならぬことと思われます。

今年はまた、久し振りに巡ってきた県定期総会に総力を挙げて「大里の底力」をお見せしたいと意気込んできた催しも中止となって役員の皆様も一層拍子抜けの状態かと思われます。

そうした中で50号記念の発行にご尽瘁下さいますことを心より感謝致します。

広報は会員相互を結ぶ「心の懸け橋」です。特に、こうした異常な時期なればこそ会員それぞれの生活のようす、心情を伺う契機として心待ちにされていることと思われます。

これからもどうぞ「魅力ある広報」づくりを目指してさらなるご尽力をお願い致します。

皆様のご活躍を感謝しつつお祝いに代えさせていただきます。

よく見れば
―感銘の心と繊細な心―

元支部長　石川　修三

「よく見れば
　なづな花咲く　垣根かな」

この芭蕉の句を、幼い頃に覚えました。それは、母が春先になると洗濯物を干しながらよく口にしていたからです。

縁側の下の黒土には、庭草が芽を出しています。それを見て「ほら！ご覧なさい。春が来たことを知って、こんな小さな草も花を咲かせようとしている。〝よく見れば！〟…そう、本当によく観ることで、この小さな花に遭えるのね。」母は句に添えて、そのようなことを言っていました。

この、子供の頃の事々をすっかり忘れていたのですが、この稿を起こすに及んで思い出されました。小さなものや目立たないもののもつ諸々にも気づくことで、まともな授業ができるようになると信じて努めた教壇での、今は昔の壮年の日々に重ねて。

「よく見れば」とは「優しさ」。ともすると見落としがちな事々に留意し、認めようとする心を重ねて諸事に当たり、方々に対面することで、心楽しく和の醸成になるのだと思っています。

天性の「優しさ」より、その時々に努めて「優しさ」をもつこと、その場に相応しい「優しさ」の在り方を考えてゆくこと、その大切さを改めて思います。「優しさ」が努力によって生じるところに、その価値の高さを思います。「よく見れば」の〝よく〟は、努力の意味に通じるのでしょう。

人との付き合いや子供を育てる（教育）上では、特にその個のもつよい部分を認め引き出してゆくことの大切さを、改めて考えさせられます。

菊根分け後は自分の土で咲け
菊作り咲きそろう日は陰の人
（吉川英治）

「雪の朝」

感謝

元支部長　小林　弘

支部長の新井俊一先生から50号記念の寄稿依頼をいただきましたが、ここ何年も文字から離れての生活が続いているため、どんな事を書いたら良いかと戸惑っているところです。

退職してから二十七年が経過しました。やめたての頃には、次々と地域の仕事や町に関する仕事を仰せつかり、忙しい毎日でした。

それ等の全ての役を辞退し身軽になったのが八十才の時でした。それからの毎日は家に居て野菜作りをしたり、時には仲間とゴルフを楽しんだりしながらの生活をして参りました。

支部長として御世話になりましたのが平成二十一年、二年の二ヶ年間でした。その間大勢の先生方に支えられながら過ごせた事、無事に役を終える事ができた事、感謝して居ります。

御世話になった中で特に大きく心に残っている事は、県の退職校長会の定期総会の会場が大里支部に回ってくる年に当った事です。

総会の諸準備から終了するまで役員理事の皆様のチームワークの良さ、又会員皆様の力強い応援をいただき、総会を無事に、そして立派に終了する事ができました。

総会の運営に携わって下さった先生方の御協力、そして先見性のある行動力のお蔭で無事に終わらせる事ができたのでした。

今もその時の事を思う度に、携わって下さった大勢の皆様に対し感謝の気持ちでいっぱいになります。

今、世界中を巻きこむ新型コロナの蔓延により、人々は不安の毎日を送らざるを得ない状況であり学校教育にも大きな影響が出てきています。本当に胸が痛みます。一日も早い収束を願うばかりです。

結びになりますが、会員の皆様の御健勝をお祈り致しますと共に大里支部の益々の御発展を御祈念申し上げます。

「デニムのひと」

随想

「わくわく農園」とサイエンスショーと無線と

熊谷東　清水　登

「先程も来られましたね！」

「さっきは長女の孫と。今度は次女の孫とです（笑）。」

退職して農家になった。米作りに体当たりで取り組んでいるところだが、その傍らに今まで使い切っていなかった畑を活用し、主に地域の方々に格安で収穫を楽しんでもらおうと「わくわく農園」を始めた。看板を立ててチラシも配り、感染対策をした初回のジャガイモ掘りではおかげさまで二百五十株が二時間で売り切れた。

枝豆、サツマイモ、ダイコン、ホウレンソウ、ニンジン等の秋の収穫イベントも一時間で完売。「娘に土をさわらせる体験ができた！」、「曲がったキュウリを食べて嫌いだったキュウリが好きになった」等のエピソードがライン登録した若いママから寄せられる。近所の九十三歳の一人暮らしのおばあちゃんもシルバーカーを押して「スーパーまで行くのは大変でね」とナスを買いに来てくれる。レタスやショウガなども、てんこ盛にして渡す。

サイエンスショーや科学教室等のオファーもいただき、本日午後も鴻巣中央小に行く。熊谷、深谷、鴻巣、草加の他、長野市でもやらせていただいた。ショーは小さな実験の連続ではあるが歓声を上げて喜んでもらえるのでうれしい。

無線仲間も増えた。念願のコン柱も立て、アンテナ作りにも励んでいる。昨日、泊まりでの移動運用から帰ってきたところである。FT8等のパソコンを介しての通信も興味はあるが、やはり生での音声やモールスでの通信が声や人柄も分かって楽しい。

デジタル化した間接体験が多い今日、体験の場がもっとあってもよい気がする。それぞれをできるだけ長く続けたいと強く思う。

人生のラストラン

熊谷中央　瀧澤　繁雄

退職後、お陰様で多くの職種につき、多様な経験が得られた。

青少年健全育成の社会教育指導員、児童虐待の家庭児童相談員、教員育成の私立大学准教授、自治会長及び地域公民館長を現在は勤めさせていただいている。

その間、日本基礎教育学会に所属し、学校教育の今日的課題に取り組むことができた。又、全国特別支援学級設置学校長協会顧問として、多くの学校訪問等で視野を広めることができ友人も増えた。

振り返れば、多くの先輩に支えられ、機会あるごとに活動の場をいただき叱咤激励されたことが心の財産になっている。

近年は、地域へのボランティア活動にこれ迄以上に取り組んでいる。毎朝の児童登校指導、夜の防犯パトロール。そして、近所の小公園の環境美化活動。放置されたごみの撤収、落ち葉拾い、公衆トイレの管理等、多種多様な活動を展開している。

自らの健康管理では、早朝のジョギング等で足腰の衰えを少しでも防ぐようにしている。六十、七十歳の節目に、ホノルルマラソンの完走が出来たことは大きな自信につながった。今は七十七歳の喜寿に挑戦してみたいと思っている。まさに人生のラストランである。いつも女房に前を走られているので挽回をしたいと思っている。

近年、コロナウイルス感染症対応で、自宅に巣籠りの人が多いという。人間関係が希薄にならないようにしていかなければならない。

こうした時こそ、外に出て、身近なところでボランティア活動をすることを勧めたい。

終わりに、退職校長会の理念をしっかり踏まえ、コロナ禍のこの時期に新たな社会奉仕に向けて、努力をしていきたいものである。

コロナ読書

熊谷西　山室　鐵夫

三月。コロナによる自粛要請が出され時間を持て余す様になった。本屋で吉田真人『背高泡立草』が目に付き買った。最近の芥川賞はこんな傾向なのかと感じた。

四月。別府沼公園で散歩を始めた。ただ歩くのもきついのでユウチューブで名作の朗読を聞いた。最初は谷崎潤一郎『吉野葛』、次は夏目漱石『三四郎』。聞いた後、昔買った本を探して読み返した。

「この機会に断捨離すれば。」と妻に迫られ、やむなく近代文学全集 百八巻を数回に分けてゴミとして出した。新任のころ安月給の中から毎月一冊ずつ買った事を思うと寂しい気がした。空いた本箱には何百冊かの文庫本を書名アイウエオ順に並べた。

五月。円地文子訳『源氏物語』、十巻と挿絵の美しい田辺聖子訳を読む。爽やかな天候に恵まれ、時にはベランダで読書がはかどった。

六月。別府沼公園の菖蒲が見頃を迎え、七月に入るとクチナシが香った。北方謙三『水滸伝』を読む。三巻まで読んで考えた。全部で十九巻、文庫本でも安くない。図書館は休館で貸し出しは電話予約、ブックオフにも行ったが、結局、四巻以降は買わず最終巻のみ買って読み、読了とした。

八月。遅い梅雨明けだったが明けたとたんに猛烈な暑さ、おまけに視力の低下も重なり読書意欲も減退した。

読書の秋となり、意欲も回復し文庫本を読み返す。三浦哲郎『忍ぶ川』に感動を新たにしたのは戦後の貧しい時代を作者と共有するからであろう。小池真理子『恋』『欲望』を読んだときは三島由紀夫を読み直そうと思った。

八十三歳、目的を持った読書は考えなくなった。今は、気ままに本と接し、楽しもうと思っている。

身近にある自然

熊谷南　栞原　伸行

早いもので、校長職を辞してから二年になろうとしています。

現在熊谷市の教育研究所嘱託として主に江南幼稚園におります。江南の地には、不思議な縁を感じています。理科教師であった私は赴任先が江南北小学校と知ったとき、ホタルだなと思ったことを覚えています。地域の自然を子供たちに少しでも理解してもらい、大切にする心を養えればいいなと考えていました。そんな中、ホタルを保護する会に関わらせていただいたことは、子供たちに対してだけでなく、私自身の見識を深める良い機会にもなりました。

江南ではゲンジボタルだけでなく、鳥ではカワセミ、タカ、キジ（旧江南町の鳥でマンホールのデザインにもなっている）など見られます。タヌキやイタチ、時にはイノシシも現れます。ちょっと気になるのはアライグマなどの外来種が増えていることです。

そんな自然豊かな場所ですが、今年九月のある朝、江南幼稚園の近くでイタチのような小動物が車に轢かれ道ばたに倒れていました。変な奴だと思われるかもしれませんが車を停めて見に行きました。大きさや毛の色に気になるところがあったのです。確信がなかったので写真を撮り後でスマホで調べたところ、テン（貂）でした。山で猟をする知り合いに写真を見せても夏毛のテンとのこと。綺麗な金色の毛並みとともに、山奥にしかいないと思っていたテンが江南に生息しているのかと少し興奮しました。人が気付かないだけなんですね。

話は変わりますが、我が家ではアライグマが悪さをしたり、最近ではイノシシが出没して困っています。自然との調和もなかなか難しいものです。

「カキツバタ」

七十歳を前にして

熊谷北　北島　寿和

早いもので定年退職して八年です。日頃、運動不足にならないよう趣味のマラソン等で汗を流しているが、最近は加齢のためか、走力の衰えも感じ始めている。

そんな折、図書館で『七十歳からの人生の楽しみ方』というタイトルの本を見つけた。印象に残っているところを一部記したい。

この本の著者（八十八歳）からのメッセージは「過去よりも未来を見ていきましょう」ということです。七十歳が見えてくると、人は人生を振り返りたくなる。高齢者には未来がないというのが、これまでの常識だったが、今はそんなことはない。高齢者こそ未来に希望を持って生きていくことが大切だと。未来というと、ずっと先のことを考えてしまうが、七十歳の未来は明日のこと、明後日のことで、「今日、何をするか」「明日、何をするか」ということを考えていけばいいんだ、と述べています。

私もあと二年で七十歳です。七十歳からの人生の楽しみ方は、人それぞれありますが、その前提条件として「健康であること」というのがあります。でも一〇〇パーセント健康だと言える人はそれほど多くはないでしょう。持病があったり、特に病気という訳でもなくても、歯や歯茎が衰えたり、足腰が思うように動きにくくなったりというのは、七十代になれば、それが普通でしょう。多少の身体の支障はあったとしても、「食べたいもの」「行きたいところ」があるというのは、元気で、人生を楽しんでいる人です。

身体の衰えを自覚しながら、その身体と上手く付き合っていくことが大切だと思います。

「人生七十、古来希なり」と杜甫は詠んだが、私も未来を見て生きていきたい。断捨離をしながら。

パブリックなことをしませんか

深谷北　篠崎　正明

私がお世話になったY町教育委員会のI教育長は、当時、公の場で「これからはパブリックなことに積極的に関わっていくことが求められています。皆さん、パブリックなことをしましょう。」といつも話されていた。話の意図は「市民町民が、私的なことだけに目を向けず、公共のことに力を注ぐことが、これからは求められています」と推測できる。今思うと、当時の私にはピンとくるものがなかった。

現在、深谷市では市役所内に協働推進部が創設されている。協働とは、英語でcooperation＝複数の主体が何らかの目標を共有し共に力を合わせて活動することである。行政と市民が一緒に力を合わせて公のことを頑張っていくという部所名の思いがある。協働推進部の中にガーデンシティふかや推進室がある。この推進室（以下緑の王国）には、市民の力を公共に生かすことをねらいとするボランティアの活動がある。「王国ボランティア」と呼ばれる人が王国の活動を支え、花フェスタ、秋祭りなど（令和二年度は中止）の他、市内の児童生徒が参加できる体験活動の支援や王国内の色々なガーデンの維持・管理を行っている。

退職してから、私は王国ボランティアとしてローズガーデンの維持・管理を中心に活動に参加している。市民の方々が「綺麗にバラが咲いていますね」と言ってくれたらと思っている。現代登録している人の中には、十年以上活動に

参加している人もいて、やり甲斐を持って参加している。I教育長の話を思い出しながら王国ボランティアの皆さんの心の中を覗いてみると、「パブリックなことをしませんか」と言っているようである。

言葉でも遊ぶ

深谷中　手計　茂

元来、遊ぶことが好きで怠惰な生活をしています。特に、外遊びが好きです。現在は、コロナ予防で、閉じこもってしまうことが多いので、旅行に行く回数も減り、多少のストレスを感じています。

それでも、時には、テレビの刑事ドラマ、落語や古典芸能などで楽しんでいます。

また、野にも山にも遊ぶところはあります。できる限りの予防をしながら、鎌でなく、クラブを持った芝刈りやプールなどで、水中歩行をしています。マスクを外した野良仕事は、草取りには閉口しますが、快適・快感・快汗です。

そんな中、言葉でも遊び、時たま、錆びた頭を回転させています。といっても、それほど崇高なものでもなく、ダジャレや掛け言葉で、個人的に少しニヤリとしています。以下、紙面をお借りします。

①【折り句遊び（私の名前から）】手を抜かず、バイタリティーで、駆け巡る、しっかり、ゲット、ルビーの時間。

②【私の日々の一場面】水曜日は、衰防止。水と戯れ、その後は、酔の楽しみ。途中で、睡魔。一炊の邯鄲の夢です。

③【コロナに負けない世相熟語】「自粛自縮」ストレッチしましょう。「窮窮病院」救急の場に携わる方々に感謝。「一咳自重」マスクしていても迷惑がられます。「五島虎減」トラベルも、飲み会も減っています。「晴杭雨独」ロックダウンになったら、晴れの日でも、杭を打たれたように、留まっていなくてはなりません。「優柔普段」ストレスやイライラが多くなりますが、心の安寧と優しさ・穏やかさをもちたいです。「陽性」を回避し、「陽転思考」を目指しています。

人情に触れる「マラソン行脚」

深谷中　山口　勝

フルマラソンを走り始めて十数年が経つ。はじめは真剣勝負の緊張感を味わうのと、記録が伸びるのが楽しかったが、この頃は、旅で出会う人たちとの触れ合いを楽しむマラソンになっている。心に残るレースを二つ紹介する。

①大会ボランティアの女性が満面の笑顔の上に、『いつ頑張るの？今でしょう』（大学予備校売れっ子講師の林修氏風）と大きくプラカードを掲げ、思いっきりのガッツポーズと熱い目線を私に送った。幸運にも三回目の東京マラソン。今年こそは自己ベスト更新し、三時間半切りを目指すレース最終盤四十㎞付近。疲労困憊の体にむち打ち、ラストスパートをかけるが足が言うことをきいてくれない。徐々に意識朦朧となってくる。そんな時にカンフル剤以上の元気をくれた。お陰で自己最高記録達成。ボランティア女性の素敵な笑顔とタイムリーなメッセージが強い後押しだった。

②今年二月十五日　今思えばギリギリのコロナ流行前、最後のフルマラソン。場所は徳島県海部郡海陽町「海部川風流（フル）マラソン」、ランナーへの温かな声援がうれしいと評判で専門誌では毎年評価ナンバーワンの大会。その秘密を探ろうと参加した。

この日、スタートから雨続き。コースの起伏に加え、海からの強風に体温を奪われた私は、後半大失速。そんな時に沿道から何度も飲み物や食べ物が差し出され、温かな言葉をかけられる。疲れ歩く私に、霊場巡りのお遍路さん同様の「お接待」の深い優しさが染み渡る。各地に大会あれど、ここほど地域の方々の温かさや心遣いで見知らぬランナーを接待してくれる大会はないと感じる。人情にどっぷりと漬かれた大会だった。これから海陽町にはまりそうである。

今、道徳教育を想う

寄居　鴻野　年伸

会員にしていただき二年目となりました。教育委員会勤務から初めての校長着任後の八年間を振り返りますと、主に「あってはならないいじめ問題等により学びを妨げられている児童生徒に如何に本来の学びを取り戻すか」という事に腐心していたように思います。幸い諸先輩方からの御指導で何とか任を全うさせていただきましたが、特に道徳教育に関わる先生方から大きな影響を受けその真似のような事をさせていただきました。

御存知のように今は道徳の時間が道徳科という特別の教科になり、より着実な学びの授業に変わり評

価まで行われています。指導要録はもちろん、通知表等にも評価の欄があり児童生徒が週一時間の授業で学んだ道徳科の評価が記述され本人と保護者に示されるのです。

たまたまある学校でいじめ問題の解決にも繋がる道徳科の授業を観る機会がありました。そこでは「いじめはあってはならないものだから私が止めなければいけないと思いました。」という発言があり、いじめは勇気の有無や友達であろうとなかろうとやってはいけないものだから私が止めなくてはいけないという深い学びの姿でした。素晴らしいと思いました。

コロナ禍の中ではありますがタブレット端末などを駆使し、授業の工夫や研究を行い「考え、議論する道徳」を通した「主体的・対話的で深い学び」が更に充実されていく事を強く願います。そして、大里地方の児童生徒をはじめ、埼玉県内外を問わず全国各地の児童生徒がしっかり自己を見つめ、いやな思いをする事なく、自らの希望する生き方を求め、近い将来、自分自身の人間としての在り方や生き方を実現できますよう願っています。

同好会だより

写真同好会

会長　岡部　弘行

新型コロナウイルスの影響で今年度最初の例会は八月下旬まで延びましたが全員出席でした。旅行先でのスナップ、自宅周辺で撮った決定的瞬間、高山植物、冬の山岳、地域のイベントショットなど各自のいつものレパートリーが出揃いました。会場はさくらめいとの会議室ですが感染防止から今までなかった扇風機があったり、終了後は館で用意したアルコールで机、ドアノブ、スイッチなどを消毒。いつもとは違う会でした。三密を避け時間短縮しての例会でしたが充実した内容でした。

囲碁同好会

会長　深田　忠雄

十一月二十一日　秋季大会

優　勝　山室　鐵夫

準優勝　深田　忠雄

古典落語に「碁敵は憎さも憎し懐かしし」の前言葉で始まる、「笠碁」がある。待ったの認否で言い争いになって別れた。二三日後、どうしても打ちたいと雨中に出かけ、二人で始めたら、かぶったままの笠から雨滴が落ちた。

それ程でもないが、「忙中閑あり」と楽しんでいた私たちの囲碁、コロナ禍で打てなくなり、本当に仕様がない。さて、新聞碁でも並べてみるか。

絵画同好会

作品展の継続発表を願って

会長　清水　信二

コロナ禍により、春の写生会、夏の静物写生・水墨画との合同の絵画同好会を中止することとした。

本会は平成十七年に発会し、第一回展を水墨画の故塚越茂先生の協力で三越深谷店で開催した。出品者十八名、作品数三十六点で出発した。以後熊谷市立文化センター（市民ギャラリー）で開催した。本年は中止になったが記念すべき第十五回展であった。この間には、会員相互の鑑賞及び会員の交情を深めてきた。今後においても創造的で心の豊かさを求め、継続発表すること祈念している。

水墨画同好会

散歩と水墨画

塚越　嘉明

水墨画同好会は大里退職校長会同好会発足と共に、深谷公民館に誕生し、現在に至っております。

指導の先生方の用具の使い方から描き方まで、適切に指導をしていただき、楽しく描けるようになり、作品展に出品できるようにまでなりました。

現在は、ＪＡ熊谷第二カントリーエレベーター付近の農耕地帯から秩父・赤城・榛名の蒼い山々を見ながら散歩しております。

それをいかに水墨画に取り入れるか、構想をねりながら歩いております。（写生から心の絵まで）

茶道同好会

会長　吉田　壽美子

茶道同好会は、令和二年に十二年目を迎えた。その間いろいろな変化があった。町田たか子先生が発起人となり、雲伝心道流指南の梶並先生に指導を頂き、八名で発足したが、只今は、五名となった。続いてＫ先生を頼みとしてお世話を頂いたが、突然退会された。一同大変驚いたが、Ｋ先生の膝のご

回復を願い、きっと、復帰されますようにと念じている。初秋のことだったので余計に心淋しい。オリンピックにお茶のおもてなしのことも先生からお聞きしている。茶の世界をのぞいて下さい。

第十八回 秋季ゴルフ大会

令和二年十一月十八日（水）、十一月とは思えない絶好のコンディションの中、久しぶりになるゴルフ大会が十八名の参加をいただき、上里ゴルフ場で無事開催することができました。随所で好プレー・珍プレーが見られ、どのパーティーからも笑顔が絶えない一日でした。

大会の結果は、次のとおりです。

・優　勝　千葉　直之
・準 優 勝　小久保良一
・第 三 位　石澤　邦彦
・ベスグロ　島﨑　一雄

（文責　島﨑一雄）

事務局だより

幹事　鶴間　信好

○支部総会　中止

会員の皆様から総会要項についての意見をいただいたところ、承認されました。また、次の二点のご意見をいただきました。

①今回のように総会が実施できなかった事態に対応する支部の規約改正が必要である。

②今年度特別徴収した五百円分の会費を返金されたい。

この件について役員会で検討しましたので報告いたします。

①は、規約第十一条の見直しを行い、来年度の支部総会で提案いたします。

②は、今年度納入者は来年度会費を五百円減額する事としました。

○教育推進協議会紙上発表となる

九月の役員会で協議会は参加者の健康を守ること、特に現職校長の万が一の感染、またその感染による校長の学校不在や学校感染を防ぐことから、現職校長の紙上発表とすることに決定しました。

岡部中　森田豊校長の「新型コロナウイルス禍における学校経営」を十月中旬に現職校長八十三名、退職校長会役員理事等五十八名、県と三市町教委に配布しました。

資料は次の構成である。

一　コロナ禍の日々を振り返る
二　コロナ禍の学校風景
三　コロナ禍とICT活用
四　コロナ禍におけるリスクマネジメント
五　コロナ禍と校長　～トップとしての心構え～

詳細については組理事が資料を保管しているのでお問い合わせ下さい。

訃報　令和二年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
渡邉　弘一	87	1・15	熊谷東
向井　邦明	60	1・23	熊谷西
田島　寿男	86	1・30	熊谷中央
加藤　和説	89	2・15	深谷北
加藤美知子	74	3・4	寄居
坂田　文雄	96	6・16	熊谷中央
原口　有次	86	8・11	熊谷東
山本　宏男	96	9・5	深谷北
原口　昌倫	82	11・11	熊谷東
鯨井　晴雄	95	11・14	熊谷中央
中村　市郎	92	12・11	深谷中
小池　幹衛	93	12・22	熊谷西
持田　重男	85	12・27	熊谷中央

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

絵画説明

第50号を飾る三枚の絵画は、絵画同好会に所属されている、元支部長、深谷北の蜂須栄先生の作品です。

編集後記

記念すべき「おゝさと」第50号をお届けします。コロナ禍の中で寄稿してくださった皆様には、心より感謝申し上げます。

記念号発行にあたり、県退職校長会長様と元支部長の皆様の玉稿を拝読し、大先輩方の重厚で力強い文章に感銘を受けました。また、人との交流が難しい現況で、「随想」を読ませていただきながら、会員の皆様との繋がりを感じることができました。この会報を通じて、皆様にも感じていただけるものがあれば幸いです。

尚、今号の「地区だより」と「文芸」は、ページ数の関係で割愛いたしました。

令和2年度
広報部員

弘子　明史　明裕　三章　一昭
眞雅　裕一　重　誠寛
田藤林口口島田本澤岡
内遠小瀧原福河松大室

埼玉県退職校長会大里支部会報
（第五十号）
発行　令和三年一月三十一日
発行者　支部長　新井　俊一
印刷所　株式会社　博文社
熊谷市本石一－一三四
〇四八(五二一)三〇六三